

# 私立 金沢工業大学

## 社会環境変化への対応力向上を実践するキャリア開発プロジェクト

取組期間	2009(平成21)年度～2011(平成23)年度
区分	学生支援推進プログラム
所在地	〒921-8501 石川県野々市市扇が丘7-1
設置者	学校法人 金沢工業大学

### 取組内容とその成果

#### プログラムの目的及び内容

社会環境の急速な変化に伴い、企業は新たな価値創造に取り組んでいる。本取組では、社会環境の変化をタイムリーに反映する教育手法を導入するとともに、多様な専門領域が融合する企業の現場を実感できる学習環境を構築することで、幅広い視野を有し、かつ明確な目的を持って自らのキャリア開発を継続的に実践できる【自ら考え行動する技術者】を育成することを目的とする。

#### 到達目標

本取組を通じて学生は、自ら学ぶ専門領域と具体的な企業の関連を明確に示すことができる。具体的には、修学履歴を踏まえた自身の強みと、企業が有する独自技術や今後の戦略等との繋がりを踏まえ、激しく変化する社会環境の中で、企業が求める人材を的確に理解することができる。また、これらの学習成果を自らのキャリア開発に連動させ、幅広い視野の中で進路選択が実践できる。

#### プログラムの実施内容

##### 1. 取組の具体的内容

全学生を対象とした「進路セミナー」と課外学習を連動させた「キャリア開発プロジェクト」を発足。多様な専門知識を有する人材が活躍している実際の企業を事例に学ぶ授業を通じて、学生は企業の取組と自らの専門領域の関連を理解する。さらに、この学習成果を活用した課外学習ポスターセッション「キャリアサミット」を開催し、学生が目指す技術者像について互いに学びあう。

(注) 学習成果を活用した課外学習ポスターセッション「キャリアサミット」という名称での開催は未実施だが、同様の目的でのスカウト型イベントを

開催。

##### 2. 取組の実施体制

学生のキャリア開発を修学・進路指導の両面から支援する進路部委員会（各学科を代表する進路主事（教員）と進路と産学連携を支援する職員が計30名参画）を中心に、「キャリア開発プロジェクト」運営チームを設置。正課一課外の両面から学生の学習を支援する体制を構築する。さらに、本学の企業情報データベースに登録される企業（卒業生が中心）の授業への参画を推進する。

#### プログラムの成果

##### 1. 当該プログラムの周知方法等

学内では、どのような方法で周知徹底したのか。

当該プログラムの周知徹底については次の方法で行った。

###### ①進路主事会議

各学科を代表する進路主事（教員）と進路と産学連携を支援する職員（進路開発室スタッフ）計30名が参加して8月を除く毎月開催される会議において、実施するプログラム（資料4）の説明や進捗状況の報告を行った。この会議で報告された内容については、学系毎に行われる会議の中で進路担当教員以外の教員にも伝達され、全教員に周知される。

###### ②ホームページでの告知

本学学生に対しては、就職支援やキャリア関連の支援を行っている進路開発センターのホームページや、学生個人毎に設けられている学生ポータルと呼ばれるホームページの画面等で情報提供を行った。

###### ③学内掲示による告知

進路開発センター専用の学内の掲示板や学内テレビにより、学生に対してイベント等の告知を行った。

###### ④ソーシャルメディア（Twitter）での告知

2011(平成23)年度からは学生への情報提供の手段

としてソーシャルメディア (Twitter) を新たに活用。発信した情報がフォローされている学生のみならず、教員経由でフォローされていない学生に伝わるなど、より幅広い周知が可能となった。

## 2. 当該プログラムの成果

(1) 自己評価は、どのような観点で行ったか。

当該プログラムの成果としての自己評価は次の観点で行った。

### ①内定率の向上

学部生の内定率は 2009(平成 21)年度以降経年で向上した

#### ・学部生内定率 1

(内定者数 / 全卒業生数 - 進学者・公務員浪人等の理由で就職を希望しない者)

95.4% (2009(平成 21)年度)、95.7% (2010(平成 22)年度)、96.5% (平成 23 年度)

#### ・学部生内定率 2

(内定者数 / 全卒業生数 - 修士課程進学者のみを除いた)

88.4% (2009(平成 21)年度)、88.9% (2010(平成 22)年度)、91.5% (2011(平成 23)年度)

### ②視野拡大を目的とした業界・企業研究セミナー参加者数推移

資料 4 にある就活支援プログラムの中で業界・企業研究セミナーの参加者が増加

開催なし (2009(平成 21)年度)、113 名 (2010(平成 22)年度)、325 名 (平成 23 年度)

※資料 5 参照

(2) 到達目標に達したか。

当該プログラムの到達目標であった、「自ら学ぶ専門領域と具体的な企業の関連を明確に示すことができ～自らのキャリア開発に連動させ幅広い視野の中で進路選択が実践できる」ことについては情報学部を中心に実践できた。リーマンショック以降、文系・理系それぞれに「情報」と名の付く学部、学科が大幅に増加し、就職状況が激化したことから同学部を中心に支援した。これにより、情報学部の学生は就職活動における視野を拡大し、製造業やサービス業など幅広く就職した。

(3) 具体的な成果は何か。

当該プログラムを通じて次の成果が得られた。

### ①就職活動学生と就職活動に出遅れた学生の見える化の仕組みの確立

就職活動対象学生の就職に対する意識の目安とな

る正課授業 (進路セミナー) 及び、3 年生の後期 10 月から開始される課外のプログラム (就活支援プログラム) それぞれの履修状況や参加状況を学科毎・個人毎に正確に把握し、進路担当教員と情報共有を図ることで、就職活動の早期の段階から重点的にサポートすべき学科や学生が見えるようになった。

### ②就職活動に出遅れた (卒業のための学業専念や就職意識の低い) 学生に対する新たな支援手法の確立

就職活動に出遅れた学生に対しては、就職活動に対する意欲を高め、自ら学ぶ専門領域と具体的な企業の関連を明確に示せることを目標としたトレーニングを 6 月～9 月にかけて実践する。さらに、7 月に採用継続企業の情報収集活動と連動し、具体的な応募先企業を学生に紹介することで就職活動の効率化を図る。この支援活動により在学中における内定率を限りなく 100% に近づけることが可能になった。

資料 1 : 2009(平成 21)年度～2011(平成 23)年度に実施した主なイベント実績

資料 2 : 実施したイベントの写真

資料 3 : 金沢工業大学のキャリア教育・職業教育

資料 4 : 就活支援プログラムの実施状況 (2011(平成 23)年度分)

資料 5 : 就活支援プログラムの参加状況報告の一例

## 今後の計画

### 1. 当該プログラムの成果をどのように活用していくか。

当該プログラムでは、3 年間の財政支援を受けた中で、「社会環境変化への対応力向上を実践するキャリア開発プロジェクト」を運営するための基盤構築ができたとの認識を持っている。この基盤を活かしてより多くの学生がキャリア開発プロジェクトに参加し、在学中に学んだ専門領域や経験といった学習成果を自らのキャリア開発に連動させて、幅広い視野の中で進路選択が実践できるよう支援していく計画である。それらを具体的に実践する組織として、新たに学内にキャリア支援室を設置し、次の内容に取り組んでいく。

・低学年からのキャリア開発プロジェクトの実践

・キャリア開発プロジェクト参加の効果を更なる高める仕組み作り

## 2. 今後の計画

当該プログラム成果を活用するための今後の具体的な計画として次の点を強化する。

### ①低学年からのキャリア開発プロジェクトの実践

今回のプログラムは3年生の後期以降がメインの対象期間となっていたが、本学では1年次からの正課・課外によるキャリア教育を実践している。今後は、1、2年を中心とした低学年の学生に対してもキャリア開発プロジェクトを拡大して参りたい。

### ②インターンシップの更なる強化

在学中に学んだ専門領域の学習や経験を実社会でどのように活かすことができるのかということを理解する上で、実際の企業内で実務経験ができるインターンシップは、非常に効果が期待できる。在学中の正課や課外の活動と、インターンシップとキャリア開発プロジェクトの効果的な連携を図って参りたい。

### ③就職活動プロセスにおけるキャリア開発プロジェクト成果実践の機会を増やす

キャリア開発プロジェクトに参加した学生が就職活動においてその成果を実践する機会を増やすことで、学習成果を高めることができる。具体的には、学生が自らの学習成果や関連した企業の研究を企業人事担当者にプレゼンテーションを行い、企業からの指名（スカウト）を受ける方法（スカウト型就職イベント）を何回か行った。今後、学内で開催される合同企業説明会や個別説明会の場においても同様の手法を取り入れて、学生の気づきの機会の拡大と成長の機会を増やして参りたい。

## 就職未内定者への支援策

### 1. 内定（内々定）のピークを過ぎても内定（内々定）を得られない者への支援策

内定（内々定）のピークを過ぎても内定（内々定）を得られない者への支援策としては、次の方法を行っている。

#### ①就職活動者の特定

日々更新される就職活動データベースにより、学科毎、研究室毎の状況が明らかになり、就職活動者が特定される。就職活動者情報は、研究室教員及び就職担当事務組織である進路開発室スタッフで共有される。

#### ②未内定学生向けガイダンス

前述のデータベースなどで得られた情報を基に、

ガイダンスを実施。そのガイダンスで参加学生が記載した調査票に基づき、個別面談を実施。

#### ③採用継続情報の収集

7月：採用継続の状況を郵便にて調査し、未内定の学生に応募先企業を紹介。

9月末～10月初旬：全国5か所（東京・大阪・名古屋・富山・金沢）で開催している企業人事担当者との情報交換会の場において採用継続状況の確認を実施。採用継続企業の情報は求人票としてデータベース上で公開され学生に閲覧可能となる。2011(平成23)年度においては全国で1,210社の企業が情報交換会に参加。

#### ④虎ノ門キャンパスを活用した合同説明会

地元就職に拘っていた学生へのエリア拡大を目的として10月中旬に本学の虎ノ門キャンパスでの合同説明会を実施。求人数の少なくなる秋以降も採用継続企業が多い首都圏の企業に目を向けさせるために実施。学生は事前に自ら学ぶ専門領域と具体的な企業の関連を明確にして自己PRをするスカウト型のスタイルを導入。2011(平成23)年度においては、17名の学生が参加し2名の内定に繋がった。

#### ⑤学内個別説明選考会の開催

学生の就職活動の利便性を図るため、学内での単独企業説明選考会を積極的に誘致。対象学科の学生に対しては学科及び研究室経由と進路開発室スタッフから告知し参加を促進。内定までのスピードを高めるため多くの企業は説明会と同時に選考も実施。2011(平成23)年度においては、10月以降で34回の個別説明選考会を開催し162名の学生が参加し、28名の学生が内定に繋がった。

#### ⑥企業開拓担当との連携

東京、大阪、名古屋にいる企業開拓担当職員4名と連携をし、採用継続情報の収集を通年で継続的に実施。また、特に未内定者の多い学科に対しては就職活動学生の専攻や希望に応じた企業訪問を行い応募先企業の開拓を行う。

#### ⑦特定分野への強化支援

特に内定状況の良くない分野を対象に進路開発室スタッフの中で専任の職員が担当し、活動中の学生一人ひとりと連絡と取り合いながら応募企業の紹介や履歴書確認、面接指導などを実施し、内定までのワンストップサービスを実施。

以上のような支援体制の結果、2011(平成23)年度においては前年度を上回る内定率となった。

## 2. 未内定のまま卒業した者への支援策

未内定のまま卒業した者への支援策としては、専任の担当者（キャリアカウンセラー）が次の3つのステップで支援を実施し、卒業後の内定にも繋がっている。

### ①ステップ1：未内定卒業生の特定と状況把握

未内定のまま卒業した者の特定については、卒業式後の3月中に就職担当の事務組織である進路開発センター職員が学生個人の携帯電話に連絡をし、最新の状況を把握。その際に、就職活動のアドバイスや今後のサポート体制について説明を行う。

### ②ステップ2：実家への封書による連絡

4月10日過ぎに、卒業生の帰省先住所宛に文書を送付。今後の支援に対する希望の有無、就職先に対する条件の確認、支援方法の確認、連絡先の確認等を行い、卒業後の支援を行うための基礎データを収集する。

### ③ステップ3：卒業生への情報提供と就職相談への対応

本学に対する既卒者向け求人があった場合には卒業生への情報提供を随時実施。また就職活動等に対する就職相談を随時実施。相談方法としては、窓口への訪問による対面での対応、電話による相談への対応、メールによる相談を実施している。

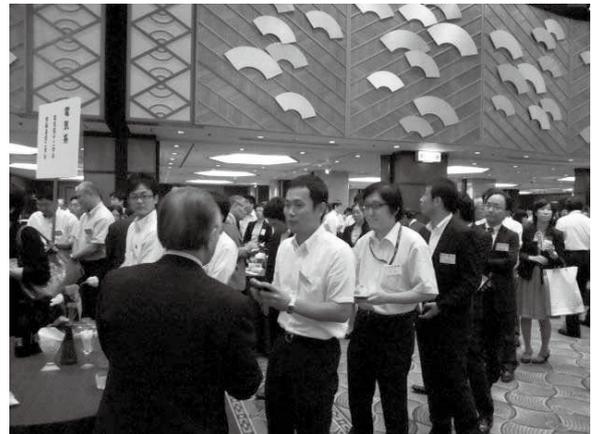
# 資 料

### 資料1 平成21年～23年度に実施した主なイベント実績

年度	プログラム名	開催日	プログラム内容
H21	人材開発セミナー	9月14日～10月5日	全国5か所での人事担当との情報交換会。
H21	合同企業説明会	2月13日～2月14日	学内で開催。79社参画。
H21	岐阜県スカウト型就職イベント	3月1日	岐阜県企業5社を本学に招いて実施。学生が自己PRと企業研究をプレゼンテーションし、企業が学生をスカウト。
H22	人材開発セミナー	9月13日～10月5日	全国5か所での人事担当との情報交換会。
H22	合同企業説明会	2月8日～2月10日	学内で開催。105社参画。
H22	ICTエンジニアフォーラム	2月28日	首都圏の情報系企業5社を本学に招いて実施。学生が自己PRと企業研究をプレゼンテーションし、企業が学生をスカウト。
H22	岐阜県スカウト型就職イベント	3月2日	岐阜県企業5社を本学に招いて実施。学生が自己PRと企業研究をプレゼンテーションし、企業が学生をスカウト。
H23	人材開発セミナー	9月12日～10月7日	全国5か所での人事担当との情報交換会。
H23	合同企業説明会	2月8日～10日	学内で開催。99社参画。
H23	情報系企業対象の虎ノ門スカウト型就職イベント	10月14日	首都圏の情報系企業9社を本学の虎ノ門キャンパスに招いて実施。学生は事前にPR内容を参加企業に伝え、企業が面接学生をスカウト。
H23	IT業界への視野拡大と虎ノ門イベント	3月26日	首都圏の情報系企業8社を本学の虎ノ門キャンパスに招いて実施。幅広い学部学科の学生に情報系企業に目を向けることを目的として実施。

### 資料2 実施したイベントの写真

#### ●人材開発セミナー



就職担当教員が企業人事と情報交換

#### ●岐阜県スカウト型就職イベント



学生からのプレゼンテーション

●IT 業界への視野拡大虎ノ門イベント



参加企業からの説明



興味を持った企業との個別面談

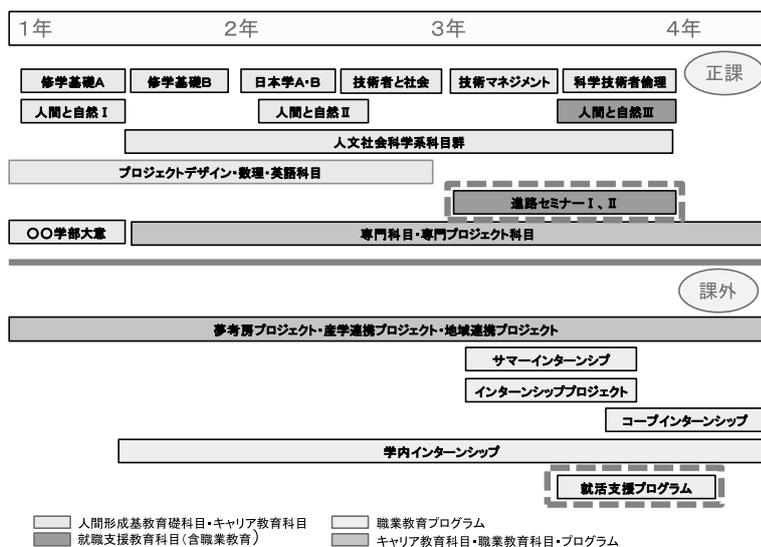


学長から本学の教育や就職関連の説明



指名を受けた学生が企業と面談

資料3 金沢工業大学のキャリア教育・職業教育



【就活支援プログラム】:

3年後期から4年になるまでの期間に実施している、主に3年生を対象とした課外活動として位置付けられている。

【進路セミナー】:

3年前期から後期にかけて行われる正課の授業であり、必修ではないが履修する学生の割合は高い。

就活支援プログラムの告知については、学内掲示やホームページ等のみならず、正課の授業である「進路セミナー」と連動して行われることが多いため学生への周知が徹底される。

資料 4 就活支援プログラムの実施状況 (平成 23 年度文)

プログラム名	開催日	プログラム内容
①就活ガイダンス	10月11日、12日	これから就職活動をはじめるための心得や準備について
②自己アピール対策講座 「採用される自己紹介書とは」	10月17日、19日	書類選考を通過するための自己紹介書のポイントについて
③業界・企業研究講座	11月2日	業界・企業研究の仕方について
④女子学生就職講座 (対象：女子学生のみ) 「女子学生のための就活心得」	11月10日 12月1日	女子学生就職するための心得、業種選択等について
⑤履歴書対策・面接試験対策講座	11月21日	履歴書に基づく面接試験対策について
⑥SPI試験対策講座	11月22日、24日、25日	SPI模擬試験の実施、自己評価
⑦KIT就職ソール活用講座	11月28日、30日、12月2日	学内の企業データベースの使い方、企業情報の見方
⑧“合同説明会の歩き方”講座	11月29日	合同企業説明会に参加するための準備と心得
⑨ビジネスマナー講座	12月12日、14日、16日	就職活動を行うに当たってのマナー(電話応対等)
⑩就職適性検査「R-CAP」・「R-CAP STRENGTH」活用講座	12月19日	自己分析に効果的な適性試験受験とその結果について
⑪石川県の産業と企業について	12月22日	石川県の産業構造とそれに伴う優良企業紹介
⑫就活突破コアスキル講座	1月12日	就職活動を突破するためのコアスキルについて
⑬業界・企業研究講座「IT業界とは」	1月16日	昨今のIT業界について
⑭メイク講座 (対象：女子学生のみ)	1月18日、25日	就職活動に応じたメイクの仕方について
⑮キャリアセミナー	1月24日	人より100倍成長する10の法則
⑯合同企業説明会 「業界・企業研究セミナー on KIT」	2月8日、9日、10日	学内での合同企業説明会開催
⑰模擬面接ウィーク	2月13日～17日	模擬面接、個人指導
⑱地元企業への就活攻略!	2月20日	地元企業の特徴を理解する

資料 5 就活支援プログラムの参加状況報告の一例

★開催された就活支援プログラムの学科別の参加者数や割合、昨年度比較等の状況は、毎月開催される【進路主宰会議】で公表し、就職担当教員との情報共有を図る。

業界・企業研究講座(11月2日実施)

表1. 2011 業界・企業研究講座

学科	EM	ER	EA	EE	EI	IC	EC	IM	HM	IP	IS	BB	BC	VA	VD	VE	合計
参加者数	39	30	26	57	11	53	2	18	0	15	4	22	25	15	4	4	325

表2. 2010 業界・企業研究講座

学科	EM	ER	EA	EE	EI	IC	EC	IM	HM	IP	IS	BB	BC	VA	VD	VE	合計
参加者数	21	12	7	16	2	14	2	11	1	3	1	10	5	2	1	5	113

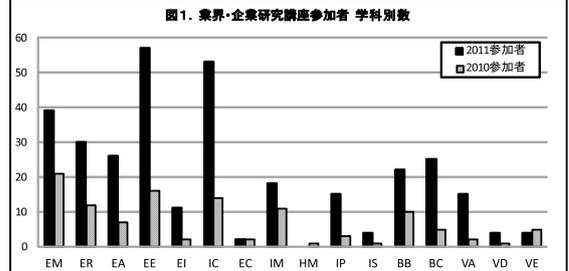
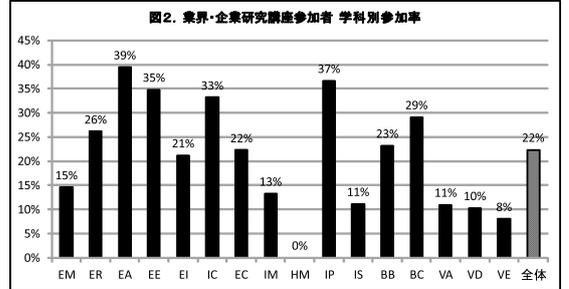


表3. 2011 業界・企業研究講座 参加者内訳(選3年生)

学科	EM	ER	EA	EE	EI	IC	EC	IM	HM	IP	IS	BB	BC	VA	VD	VE	全体
参加者数	39	30	26	57	11	53	2	18	0	15	4	22	25	15	4	4	325
在籍数	268	115	66	164	52	160	9	136	2	41	36	95	86	137	39	50	1456
参加率	15%	26%	39%	35%	21%	33%	22%	13%	0%	37%	11%	23%	29%	11%	10%	8%	22%



評価結果

評定：S

評定理由(総論)

社会経済等の環境の変化や時代が求めているニーズを的確に捉えて、その基礎の上に「多様な専門領域が融合する企業の現場を実感できる学習環境」を構築するという試みは、優れた取組であると言える。その具体策として、進路セミナーと課外活動を

連動させた「キャリア開発プロジェクト」という場を構築して取り組んでいる。

さらに、当初は明確に想定していなかった「就職活動学生と就職活動に出遅れた学生に見える化の仕組みの確立」や「就職活動に出遅れた(卒業のための学業専念や就職意識の低い)学生に対する新たな支援手法の確立」という成果も得られており、プログラムの効果があったことが認められる。

視察日：2012(平成24)年11月5日（月）



### 総評

金沢の地方都市に開学された地方大学である。しかしながら今では全国規模に成長した大学である。沿革の中に大学の建学の理念が明快に表現され「人間形成」「技術改革」「産学共同」となっている。

今回、同大学の首脳陣や学生支援に関わっている教職員との面談の機会を得た。いたって自然体であり、自信に満ちた対応と解説を受けた。周到な準備で大学の概要や3年間の学生支援に関わる取組や経過について、丁寧な解説をうけた。

大学の取組は、社会や経済等の環境の変化や時代が求めているニーズを的確に捉えて「多様な専門領域が融合する企業の現場を実感できる学習環境」を構築して、その具体策として、進路セミナーと課外活動を連動させた「キャリア開発プロジェクト」等は学生の自主性を尊重してエネルギーを発散させているのは、高く評価できるものである。

特に印象に残ったのは「夢考房」がある。広大な施設には学生が正課の終わる頃から研究が始まり、夜遅くまで使われている様子である。人力飛行機、ロボット、フォーミュラカー等々、様々な試作途上の作品が所狭しと置かれていた。多くの受賞の実績があったものも含まれていた。ネジや簡単な材料も実費で販売するコーナーがあり、学生の自主管理であると伺った。年間300日開放されている。

同大学での実践教育は社会の技術者が「自ら考え行動する技術者」を目の当たりに学び取り、学習の機会となっている。現場を見て技術者の発想や行動を見ることは「目的意識」や「情報収集能力」の向上等々、自然に学ぶこととなる。教授陣の出身も産

業界からの転身者が多く、大学と企業とのパイプもあり、長い歴史の中で卒業生とのパイプも強い絆で繋がっている様子であった。またポスターセッション「キャリアサミット」を発足してスカウト型の企業へのアピールを行い、就職のきっかけを自主的に行っている。

「キャリア支援室」では多くの企業情報がタイムリーに収集されており、相談窓口も教職員や外部専門家も加えて充実し、実習成果として幅広い視野で進路選択も可能となっている。

就職内定者3名との面接も好感の持てる内容であった。幅広い職種にトライしており、インターンシップが縁となって内定に至った学生との面接事例も、教養と感性豊かな将来性のある学生であった。大学の印象として、教職員と学生と経営陣が丸となっている大学である様に感じられた。

### 個別事項

「低学年からキャリア開発プロジェクトの実践」により、就業意識の高揚や社会と自分との繋がりのある社会人としての独立した意識などを学習する機会を正課の中に取り入れている。1年次後期から「KITポートフォリオシステム」を活用しながら自分史や将来の展望を描き、4年間の構想を具体的にデザインさせている。(キャリアデザイン)

「夢考房」での課外活動を助成して、産学協同に発展するプロジェクトにも発展している。全学生(7,000名)の4割に当たる4,000名が利用しており、自主的な研究は大きな成果に繋がっている。

就職実績を見ると、大手企業や上場企業と公務員

を入れると約 50%に達している。後の 50%が中小企業に名を連ねている。「全国区に広がる卒業生の就職先企業」の就職先分布図を見ると、石川県に留まらずに東京や大阪の大都市圏にも広がり、就職のネットワークが完成している感がある。また、Uターン希望の卒業生に対しても、北陸三県との連携でスカウト型の就職イベントも開催している。

「インターンシップや課外活動の強化」では教職員の企業や卒業生へのアプローチで企業研修の機会を獲得して、学生の自主性においてインターンシップに参加している。

「就職活動学生と就職活動に出遅れた学生の見え方の仕組みの確立」や「就職活動に出遅れた（卒業のための学業専念や就職意識の低い）学生に対する、新たな支援手法の確立」という成果も得られており、プログラムの効果が認められ、手厚い支援が行き届いている。「未内定でのままで卒業した学生への対応」では、専任担当のキャリアカウンセラーが支援体制をとっている。

「プログラムの周知方法」では①進路主事会議、②ホームページによる告知（進路開発センターホームページ及学生ポータルページ）、③学内掲示による告知、④ Twitter による告知等の選択肢がある。

金沢工業大学の教職員、学生、取り巻く産業界との信頼関係の輪のなかで、持続可能な成果が続くことを期待している。